

平成22年度 中華人民共和国江蘇省淮安市楚州区訪問
吉備中央町中学生国際交流研修団報告書



吉備中央町国際化推進協会

目 次

■はじめに	吉備中央町長 重 森 計 己	2
■報告書発行に寄せて	吉備中央町国際化推進協会 会長 日 名 多津子	3
■第 8 回中華人民共和国江蘇省淮安市楚州区訪問 吉備中央町中学生国際交流研修団		
〈名 簿〉		4
〈記録写真〉		5
〈報 告 書〉		13
【参考資料】		
〈研修団員の応募から報告会まで〉		28
〈日 程〉		29
〈淮安市楚州区の概況〉		30
〈現在までの交流の経過〉		31



はじめに

この度、吉備中央町を代表し、7月30日から8月5日まで中華人民共和国江蘇省淮安市楚州区を訪問された吉備中央町中学生国際交流研修団員の皆さん、大変お疲れ様でした。猛暑のなか所期の目的を達成し、全員無事に帰町できましたことは大変喜ばしい限りです。楚州区での歓迎会やホームステイ体験、中学校や高校、外国語学校訪問での交流会では、かなりの勇気とエネルギーが必要であったことでしょう。大都会の南京や上海の施設見学では、新たな国づくりに対する圧倒的な熱意に大きな感動をうけたことと思います。

世界の各地域との様々な分野でのボーダーレス化が急速に進展していく中、地球的視野に立って物事を考え、異なる文化や価値観を認め合うことのできる人材の育成は、国際化時代にふさわしい地域の発展を図るうえで、ますます重要となっています。

吉備中央町では、旧賀陽町で実施していた中華人民共和国江蘇省淮安市楚州区との友好提携（1999年1月締結）を引き継ぎ、国際感覚豊かな次代を担うリーダーを養成するため、今後も隔年で中学生を対象とした国際交流研修団の派遣を行います。

この報告書には、団長以下12名（引率4名、中学生8名）の国境を越えた人々との心の交流や、示唆に富んだ実体験などの貴重な足跡が集録されています。本書が国際理解や交流にかかわる多くの方に読まれ、参考資料として幾分でもお役に立てば幸いです。

終りになりましたが、今回の中学生国際交流研修団派遣にあたりご協力いただきました吉備中央町国際化推進協会の皆様をはじめ、入国から出国まで終始お世話くださいました、楚州区並びに江蘇省国際交流センター関係者各位に対しまして心から感謝の意を表します。

2010年9月

吉備中央町長 重 森 計 己

報告書発行によせて



平成22年 8 月 5 日午後、中学生国際交流研修団12名が帰国。

「全員無事で元気に帰ってきました。」

帰町報告の第一声でした。

出発前の壮行式での緊張感からは程遠い、何かを成し遂げた自信と、故郷へ帰ってきた安堵感が漂っていました。

岡崎嘉平太氏の故郷である吉備中央町と、中国・周恩来総理の故郷である淮安市楚州区が、偉大な先輩の遺志を継承し、1993年から相互の友好交流を行ってきました。友好提携協定が締結（1999年）されてから11年が経過し、中学生を中心とした未来志向の交流が続けられています。

平成18年度の交流から、町国際化推進協会からも訪中団を派遣。中国からの訪日、来町の折には日本の伝統文化である、備中神楽、和服、お茶席、琴の演奏等で交流を深めてきました。行政の応援をいただきながら、国際交流事業の中心に位置づけています。

日中の国交断絶時代、貿易の発展を通じて、国交の早期回復を願い、周恩来総理との厚い絆を結び、戦後100回にのぼる訪中を行った岡崎先生。その歩まれた同じ道を、今年度も団員各人がそれぞれの思いを抱いて辿り、交流をすることができました。国際理解を深めた彼らが、将来の郷土の発展に貢献しゆく人材となるよう心から期待しています。

2010年 9 月

吉備中央町国際化推進協会 会長 日 名 多津子

平成22年度吉備中央町中学生国際交流研修団名簿

職名	氏名	NAME	性別	所属
団長	津島雅章	TSUSHIMA MASA AKI	男	町教育長
副団長	小林正男	KOBAYASHI MASAO	男	町国際化推進協会理事
団員	洲脇浩	SUWAKI HIROSHI	男	大和中学校教諭
団員	栗本律子	KURIMOTO RITSUKO	女	吉川中学校教諭
学生	植本壮一郎	UEMOTO SOICHIRO	男	大和中学校3年生
学生	岡崎真吾	OKAZAKI SHINGO	男	大和中学校3年生
学生	上田耕平	UEDA KOHEI	男	大和中学校3年生
学生	伊賀優里香	IGA YURIKA	女	吉川中学校3年生
学生	水舟彩子	MIZUFUNE AYAKO	女	吉川中学校3年生
学生	山本透音	YAMAMOTO YUKINE	女	吉川中学校2年生
学生	山崎弘太郎	YAMASAKI KOTARO	男	加茂川中学校2年生
学生	早川直希	HAYAKAWA NAOKI	男	竹荘中学校1年生



2010年7月30日 壮行式

— 記 録 写 真 —

● 7月30日【壮行式 ～ 上海】



町長から区への親書を託される

たくさんの皆さんに▶
送られて岡山空港へ



◀いよいよ中国へ
向けて出発

機内にて。少し緊張▶



上海浦東国際空港に到着。空港の広さに驚く



通訳・丁朱雷さん。
楚州区教育局副局長・咸勇さんの歓迎でホッと一安心



中国で初めての夕食。品数も多く、とてもおいしい



バスで、ホテルに到着。ずいぶん遅くなりました

● 7月31日【蘇州市見学 ～ 楚州区 (淮安市楚州区歓迎会)】



蘇州の水郷の中にある町並み

文字を記した▶
たくさんの赤
いリボン。日
本でいう「お
みくじ」



◀ 呉王ゆかりの
虎丘入り口



中国四大名園の▶
ひとつ留園。
時代を感じさせ
てくれる静かな
庭園



◀ 2500年以上の歴史のある虎丘。雲岩寺塔
は東洋の「ピサの斜塔」と言われている



◀ 歓迎会で楚州区
区長から歓迎の
ごあいさつ



町長から託された▶
楚州区への親書を
手渡す



◀ 生徒はホストファミリーと
卓を囲む



◀ ホームステイ先へ



▲周恩来故居

周恩来故居にある井戸▶
「水を飲むとき、井戸を掘った人の恩を忘れない」（国交回復の功労者、岡崎嘉平太氏を讃える時に引用される中国の言葉）



周恩来記念館



記念館の中には周総理の大きな彫像



西遊記の著者、呉承恩故居



三蔵法師と孫悟空達の像



文通中学校



文通中学校前で記念撮影



李橋中学校



学校訪問で水と果物の接待を受ける



団長をはじめとする引率者、ホストファミリー宅を訪問。
「よろしくお願いします。」



ホストファミリーの皆さんと記念撮影



ホストファミリーの皆さんと記念撮影



ホストファミリーの皆さんと記念撮影

● 8月2日【淮安市楚州区 ～ 南京】



新安小学校で教育懇談会



小学生の歌などで迎えられる



◀練習を重ねた「よさこいソーラン」を披露



▲「世界に一つだけの花」の歌は中国にも浸透しており、みんなに人気



楚州区とお別れ。お別れ会で副区長と最後の交流



南京の夜

● 8月3日【南京 ~ 上海】

▶南京の朝。近代的建物がとびこんでくる



南京市内は大渋滞

▶孫文の陵墓がある中山陵



孫文が葬られている祭堂に到着

▶上海。近代的なビル群



◀上海最高の夜景



● 8月4日【上海万博見学】

▶上海万博。朝からすごい人



上海万博中国館。デザインは「東方の冠」



上海万博日本館。愛称「紫蚕島」



上海万博アメリカ館。テーマは「2030年を祝う」

▶デンマーク館。デンマークの宝である「人魚姫」の像が、初めて国内から東方の文明古国へ



万博会場では班に分かれて行動

● 8月5日【上海～帰国】



中国に別れを告げる



機内食はヌードル、サラダ、お餅



岡山空港に無事到着



全員そろって町長に帰国報告



ゲートからみえた笑顔にひと安心



楚州区からのお土産を披露

—— 研修団報告書 ——

中国楚州区訪問を終えて

団長（町教育長） 津 島 雅 章



「暑う。ぼっけえ暑いのを。」これが、上海空港を一步外に出た私の、というより全員の感想であったと思います。中国滞在7日間、この間、ホテルやバスの中を除いて、「涼しい」と思ったことは一度もありませんでした。折しも中国は、異常気象の影響と思われる高温が続き、連日38～39℃となり、上海あたりは「中国三大かまど」の1つであると報道されているとのことでした。私の60余年の人生で、かつて経験したことのない、大袈裟に言えばまるでサウナのような気候の中で、1週間の中国生活が始まりました。

このたび（7月30日～8月5日）、吉備中央町と吉備中央町国際化推進協会の共催による中学生国際交流研修事業として、中国を訪問する機会をいただきました。8名の中学生と私を含む4名の引率者の計12名で、中国江蘇省淮安市楚州区を訪問いたしました。本町と中国淮安市は、本町出身の岡崎嘉平太氏と、淮安市出身で中国の総理を務められた周恩来氏という双方の偉大な先輩の友好関係を基盤として、吉備中央町と淮安市の友好交流を推進する、また、ひいてはそれが、日本と中華人民共和国の友好に寄与するというところで、隔年で交流団を派遣しあっているところです。

中国における淮安市の位置ですが、上海市からみると北北西に位置しています。上海空港に着いたのが、現地時間で午後3時前（時差は1時間：日本が1時間早い）でした。一気に淮安市までというには距離がありすぎ、中国初日の宿は「蘇州夜曲」で有名な蘇州でした。この蘇州の近くにこれまた演歌で大ヒットした「無錫旅情」のふるさと「太湖」などがあり懐かしさを覚えたものでした。人口は約120万人とのことでした。

7月31日の夕方には、淮安市楚州区に入ることができ、多くの人の出迎えを受け感激いたしました。赤地に白で「岡山県吉備中央町中学生交流団熱烈大歓迎」と書かれた横断幕はあってその気持ちを汲み取ることができました。夜の歓迎会においても大いに歓迎を受け、言葉はお互いに通訳を介してでしかわからなかったのですが、友好的な雰囲気の中で行われました。中国の酒といわれるアルコール度数42%の「蒙大酒」での乾杯（中国ではカンペイという）が何回でも繰り返されるのにはびっくりしました。8月の2日には歓送会が同じようであったのですが、その時の「蒙大酒」は52%とのことでした。お酒に弱い私にとってなかなか厳しいものでしたが、気持ちはとても伝わってきました。中学生たちは、この歓迎会後には3組に分かれてそれぞれのホームステイ先へと向かいました。

翌8月1日には、前述の故周恩来首相の生家と記念館及び孫悟空の作者呉承恩氏の生家を見学しました。2人とも歴史的な人物であり、淮安市ではスーパースター、もちろん中国においてもそうであろうと感じました。多くの観光客が中国の至る所から訪れているとのことでした。昼からは、小学校・中学校・高校を各1校見学させていただきました。1小学校が児童数約2千人、1中学校が約6千人、1高校が約8千人とのことでした。校舎も大きく、中学校と高校では通えない生徒がおり、それぞれ半数の者が寮生活をしているとのことでした。そのような学校がいくつもあるとのこと、この点を吉備中央町と比較することは難しいものでした。今日も暑さは一級品。朝バスの中で日よけにということで傘をいただきました。嬉しいのですが、傘を差してもその効果が少しも感じられないのが恨めしい。タオルが汗ですぐびしょになる。



次の日には、淮安市楚州区の教育局の方と懇談を行い、その後小学校の児童と交流会を行いました。本町の中学生たちは、黒い法被姿で「よさこいソーラン節」を踊って見せ、現地小学生たちの喝采を浴びました。淮安市楚州区は二期学制で、この時期は9月から始まる新年度前の休みですが、わざわざ登校してくれて交流に参加してくれました。淮安市楚州区での滞在もこの日までで午後2時半には淮安市の人たちに見送られて南京へと向かいました。この後、南京及び上海に滞在して見学をさせていただきましたが、どちらも大都市で、とりわけ上海は1千万人を超す市で、その人の多さには、夜の歩行者天国へ出てみて度肝を抜かれました。

ここまで取り留めもないことを書いてきましたが、全体的な感想としては「やはり中国という国は大きく、広く、長い国だなあ。テレビや新聞や雑誌で報じられているように教育や経済の面では発展してきているなあ。でも、全部が全部そうではなく、バランスがとれていないところもあるなあ。たとえば、都市と都市の間の農村部の風景、淮安市楚州区の市内でみられる黒塗りの乗用車と自転車・オートバイ群。バランスがとれた中国はどこまで伸びるのかなあ。日本（人）に対する一般庶民の感情として特別なものは感じなかったなあ。歴史も文化も違う国同士の交流は勇気やエネルギーがいるが、真心を持って接することで気持ちが通ずるものだなあ。」といったところです。

灼熱の中、励まし合いながら、何とか12人で、友好交流の責任を果たせたかなと思います。町や国際化推進協会、事務を担当していただいた協働推進課の皆さん、受け入れてくださった中国淮安市楚州区の関係者の皆さん、とりわけ私たち訪問団の世話をしてくださった江蘇省国際交流センターの通訳の丁朱蕾さんに感謝を申し上げ、また貴重な経験を与えてくださったことに厚くお礼申し上げ研修事業の報告といたします。

吉備中央町初中生国際交流研修事業★

中学生国際交流研修団に参加して

副団長（町国際化推進協会理事） 小林 正 男



この度、友好訪問中学生国際交流研修団の一員として参加し、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

岡崎嘉平太氏が日本と中華人民共和国の友好を推進され、国交回復に功績のあった偉大な方とは深く知りませんでした。

町合併により商工観光課へ配属され、町をPRする立場になったのがきっかけで、知ることができました。岡崎嘉平太記念館が主催する講演会、町巡りで記念館を訪ねた時の河田館長さんのお話、又大和山で中国からの留学生が植樹へ参加した時の富岡さんのご案内時の説明などで

した。隣町（合併前加茂川町）に居ながら、今思えば大変恥じるべきことだったと思います。

さて、中国での研修では、行く先々で、熱烈歓迎岡山県吉備中央町友好訪問団という横断幕や、小学生によるブラスカバンドの演奏や、歌や踊りなどで歓迎、多くの方に拍手で迎えられたり、交流会で心温まる歓迎の挨拶や、ホームステイ先での家族の対応など、数えきれないほどの思いやる心と、おもてなしして下さる熱意に感動の毎日でした。それに答えるかのように、訪問した中学生も事前研修の中で2回ほどの練習でしたが「ソーラン踊り」と「世界に一つだけの花」の合唱はとても元気よく子供たちから大きな拍手をいただくすばらしいものでした。



また、交流会や教育懇談会での中学生の挨拶や質問も堂々としたもので、すばらしく誇らしげに思いました。今回参加した子供たちから、第二の岡崎嘉平太氏のような偉大な方が誕生するのも夢ではないのではとも感じました。

7日間の長い研修でしたが、訪問団員内では、津島団長の団員全員に対しての心遣いや、洲脇先生、栗本先生の子供たちに対して、時には親として、時には先生としての対応はさすがだなと感心しました。

全員無事怪我無く帰国することができ、友好訪問中学生国際交流研修団として後に繋がる任務が果たせたのも参加者同士の助け合いや、中国で学んだ思いやりの心ではなかったかとも思います。

最後になりましたが、机上で知ることも大切ですが、現地で知る岡崎嘉平太氏や中国、又周恩来総理の事など大変意義あるものでした。町、担当課、担当者並びに関係者皆様に感謝しております。ありがとうございました。

吉備中央町初中生国際交流進修事業

国際交流事業に参加して

団員（大和中学校教諭） 洲 脇 浩



現在の日本にとって欠かせない国“中国”との国際交流事業に参加する機会をあたえられました。私が小学校のころ、岡崎先生のご尽力により両国の国交の扉が開かれ、中国政府が日本に“パンダのランランとカンカン”が贈られ、パンダブームが起きたことを今でも鮮明に思い出します。その後、両国関係は着々と発展し、多くの国民が互いに訪問し、友好を深めています。今回吉備中央町と淮安市との交流事業に参加引率にあたり“中国の大自然とそこに住む人々の生活”や“中国の人々の考えや発想”について勉強したいと思いました。

上海から蘇州、淮安に向かう真っ直ぐなハイウェイ。車窓からは、山は全く見えず真っ平らな田園地帯。走れども走れども目的地には着かない。日本では、どうてい考えられないこの大陸的な風景を身をもって体験し感動しました。この田園地帯から生産される米が、13億人の胃袋を支えている一部と思えば、その消費量のすごさは想像を絶するものだと再認識しました。今回の訪問で、日頃から気にかかっていた中国の人々のトウモロコシの食べ方もわかったことも今後の社会科の授業に活かしていけると思いました。

また、食を共にすることの重要性を感じました。互いを認め、腹を割って話す。その一歩として食事を共にすることの意味あいを身をもって感じました。勧められたものを食べ「ハウチー。」この一言で卓の雰囲気は和み会話がはずみました。以前、「人間関係はまず共に食べることから。」ということを言われたことがありましたが、なるほどと感じる1週間でした。

日本では、その場の雰囲気や目で意志の疎通をはかれますが、中国ではハッキリ自分の考えや思いを主張することが大切だと思いました。「たぶんこうかな!! だろう。」は、なかなか通用しないように感じました。大陸の中で多くの民族が、覇権を争った歴史の中で自分を主張することは当たり前なのかもしれません。「〇〇が欲しい。」「〇〇がしたい。」をはっきり言う必要性を感じました。

今回まで何回か、中国を訪れる機会がありましたが観光が目的で、なかなか中国人民の生活にふ



ることができませんでした。今回生徒がホームステイでお世話になる家庭を訪問しました。その際、家の中に入り生活の一部を見せていただいたことは、今後の社会科地理に活かせると思います。おしゃれでセンスのよい家具やシステムキッチン。豊富な電気製品。目を見張るようなお宅でした。富裕層（おそらく）の様子が参考になりました。

最後に意外だったことは、西洋の美が人工物に対して評価する美意識に対して、日本や中国は自然の美に対して評価する共通の美意識があるように思っていました。（桂林の水墨画など）ただ、日本は「調和の美意識」で、中国は「珍しい自然に対しての美意識」を感じました。記念写真をたくさん撮りましたが、撮るポイントは日本・中国で差がありました。

この交流が益々発展し、日中間の友好関係が続きますように、学校現場を通じて頑張りたいと思います。

吉備中央町初中生国際交流進修事業

中国を訪問して

団員（吉川中学校教諭） 栗本 律子



この度、国際交流研修事業で中国を訪問させていただき、自分の中で考えた事や感じた事を、二点述べたいと思う。

一つは、中国と日本の違いについてだ。

中国は大きい。国土は日本の何十倍という大きさだ。そのため町も道も広い。バスでの移動が4時間、5時間なんて、日本では普通ない。有り得ない。また、人口の規模も大きい。どこへ行っても人がものすごく多いし、町にはマンションがこれでもかというくらい建ち並んでいる。これだけ大きい中国だからだろう、人の心も大きいように感じた。細かいことは気にしない、よく言えば大らか、悪く言えば大

雑把な人間性を見てとることができた。

一方、日本は小さい。国土も人口も中国に比べればずっと小さく、少ない。だからこそ人間性も中国と違ってくるのではないだろうか。日本で電子技術が発達したのは国民性からだ、という話を聞いたことがあるが、まさにその通りだと思った。日本人はよく言えば細やかで丁寧、悪く言えば細かすぎるところがあると思う。中国の国土と人間性に触れることで、改めて日本人というものを考えることができたと思う。

もう一つは、中国と日本の共通点である。先ほど中国人と日本人の人間性の違いについて述べたが、この研修で気付いた共通点もある。それは、互いに「人間」である、ということだ。

私は中学生の時、修学旅行先で初めて中国人に出会った。日本人と同じ顔つきなのに、日本語ではない全くわからない言葉話をしている彼らを見て、「この人達は自分とは違う人だ」と思ったのを覚えている。

しかし、今回中国の先生方や教育局の方々と交流をしてみて、ようやく中学の頃の思い込みがはがれた。言葉は通じないが同じようにご飯を食べ、同じようにお酒を飲み、同じような悩みをかかえ、同じように笑う。ただ言葉が通じないだけで、日本の友人と同じように交流することができる。当たり前なのだが、この事を肌で感じる事ができたのは、この研修一番の収穫でした。

これら二点は、普段の生活では決して考えることのなかった、気付かなかった事だ。新しい発見をすることができたこの経験は、これからの人生にきっと役立つことだろう。



中国見聞録

リーダー 大和中学校3年 植本 壮一郎



言葉の壁は大きい。しかし、それは決して越えられないものではない。私が今回の中国での研修で感じたことだ。

7月30日から7日間の今回の研修日程。実に様々な場所を見学し、多くのことを学んだが、その中で私が最も心配だったものがある。ホームステイだ。

子供だけで3人、異郷の地で泊まるのだ。おそらく言葉も通じないだろうし、ライフスタイルも日本とは違おうだろう。また、これは向こうに行って初めて感じたことだが、あれだけ大量でしかもわれわれ日本人にとっては油分の多い食事が家庭でも食されているのだろうか。もちろん、向こうは歓迎の意を示してくださっている

のだから感謝こそすれ、文句をつけるなどもってのほかなのだが、それでも少し憂鬱な気分だった。

そんな、不安な気分で迎えたホームステイ初日。歓迎会の会場から車で10分ほど。到着したのはモダンな雰囲気のマンションだった。もっと古風な家を想像していた私は少し意外に感じた。リビングに通された我々3人は所在のなさを感じつつ縮こまっていたが、その家の息子さん、楊君は意外なほどフレンドリーに話しかけてくれた。それは英語だったのだが、どうにもうまく聞き取れない。そのことを向こうに伝えようとしたが、彼もまた我々の英語を聞き取れないでいたようだ。まあ、両者ともに母国語でない英語を習いたてはやぼやの中学生が話したって、どちらにも訛りが入ってうまくいかないのは当然と言えば当然なのだが、それではいろいろと支障が出るし、ご両親もまた英語は得意とされていないようだった。万国共通の思案顔でしばらく対策を練った末に出た結論は筆談をしようというものだった。早速メモ用紙を手にした彼が書いて渡してくれたものには、今日は遅いから早く休んだ方がいいという旨のことが書いてあった。予想どおり、あまり複雑な文ではなかったから、問題だったのは両者の発音だったのだろう。ともあれ、少し面倒ではあるものの、なんとか意思伝達手段を得た我々は、その夜は何事もなく床に就いた。

迎えた翌日。昨夜のうちに朝食の時間を知らされていた我々は、ダイニングに通された。そしてそこには、我々の感覚では少々ヘビーな朝食が用意されていた。多く見積もっても楊家の4人と我々3人の計7人でいただくには、いささか多すぎるように思われるそれに、感謝の意とともに不安を感じながら食卓に着いた。楊家の奥さんは、なかなか料理上手な方のように、味はとても美味しいと感じたのだが、案の定我々のお腹は満腹になってくる。これは午前中いっぱい苦しくなるかと思っていたそのとき、楊君が、「もし満腹なら残してもかまわないよ。」と言ってくれた。お言葉に甘えてそうさせていただいたが、もしかしたら口に合わなかったのかと思わせてしまったかもしれない。そんなこんなで、その後もいろいろあったが、夜には楊君ともすっかり打ち解けて、互いに母国語を教え合ったり、トランプゲームをしたりして、想像していたよりもずっと楽しい時間を過ごすことができた。そして、とうとう別れの朝が訪れた。このまま、これっきりの関係で終わってしまうのも惜しいと思っていたら、彼がメールのアドレスを書いた紙を渡してくれた。その後、記念写真を撮って別れたのだが、現在でも彼とはメールで連絡を取っている。

こうして、ホームステイの日程は終了した。英会話が成立せず、スムーズなコミュニケーションをとることはならなかった。冒頭にも書いたとおり、言葉の壁は大きい。しかし、今回の研修でそれは絶対に越えられるのだと知った。そのための最も有効な手段は世界共通のコミュニケーションツールである英語であるだろう。しかし、たとえそれが使えなくても、互いに思いやり、相手を知ろうという姿勢で臨め



ばぼんやりとでも意思は伝えることができるのだ。今回は中国だったが、ほかの国でもまた然りであろう。

今後は、この経験を活かして、もっと中国をはじめとする諸外国を訪れ、より見識を広めたい。そして、郷土の偉人、岡崎嘉平太氏を超える、とまでは生意気かもしれないが、志を大きく持って、社会のためになりたいと思う。

吉備中央町初中生国際交流進修事業

研修団として学んだこと

サブリーダー 大和中学校3年 岡崎真吾



僕が中国に行く前に持っていた印象は、高層マンションが立ち並んでいたりと、たくさんのお車が走り交わっているということでした。中国はもちろん、海外にもいったことがなかったのでテレビで見た印象しかなかったのです。期待に胸を膨らませながら7月30日中国に行きました。

まず僕が驚いたのは空港の大きさでした。飛行機は幾つもあるし、ターミナルは広いし、岡山空港とは比べものにならないほどの規模でした。そして空港に降り立ったとき、いよいよ中国に来たんだという気持ちになりました。

次に驚いたのは学校の大きさでした。小学校でも全校生徒が5,000人、6,000人もいるという話を聞いた時はとても驚きました。

学校の建物の大きさも日本では大学並みの大きさで迷子になりそうなくらい大きかったです。でも僕がこの中国訪問で一番驚いたのは、僕達友好訪中団への歓迎でした。2日目の歓迎会では拍手で出迎えていただき、盛大な歓迎会をしていただきました。3日目の学校訪問では訪中団みんなにいろいろなお土産をいただきました。教育懇談会は小学生の合奏で出迎えてくれました。嬉しかったけど、友好訪中団としての責任も感じました。

そして、僕がこの訪中で一番思い出に残っているのがホームステイ先での交流でした。あまり時間がなかったけど、前から目標にしていた英語でコミュニケーションをとったり、中国語を教えてもらったり、日本語を教えたり、カードゲームをしたりしました。でもやっぱり最初は言葉の壁に戸惑いました。自分の英語は上手く伝わらなかったし、自分達以外は中国語なので何を言っているのか分からず、無言でご飯を食べたこともありました。そして本当に2日間もやっていけるのか不安になりました。でも筆談をしたり、大富豪、ババ抜きなどをしていくうちに、いつの間にか仲良くなっていました。

また、筆談をした中で驚いたことがありました。それは何が好きと聞いたら日本のアニメであるナルトが好きという返事が返ってきたことです。中国でも日本のアニメが有名なんだと改めて日本のアニメのすごさを知りました。そして同じ中学生だんと身近に感じた瞬間でした。

洗濯やご飯などをしてくださったホームステイ先のお母さん、送り迎えをしてくださったお父さん、一緒に遊んだ中学生、家族の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

観光地である寒山寺、虎丘、中山陵など、いろいろなところを訪問するなかで改めて、このようなことができるのは岡崎嘉平太さんが日中友好の架け橋になってくださったからなんだと思います。これからは今回の経験を活かして、自分も日中の友好のためにできることを探して行動していけたらと思います。



中国訪問を終えて

大和中学校3年 上田耕平



僕は中国に行く前に中国の衣・食・住と教育はどんなふうになっているのか考えていました。

衣・食・住の中の衣服では、行く前はチャイナ服を着ている人がいるのかなと思っていました。ですが日本とほぼ同じ洋服でした。チャイナ服を着ている人は1人もいませんでした。

食べ物では、中華料理はどんなふうになっているのか知っていました。ですが、食事にお茶やお水を飲むのかなぁと思っていましたが、お茶や水じゃなくて、コーラなどの炭酸飲料が主でした。(僕にとっては、とてもうれしかったです。)

住宅では、普通に靴をぬいで素足でいるのかなぁと思っていました。ホームステイ先では、もちろん靴をぬぐのですが、そこからはサンダルにはき変えて生活しました。

入浴では、浴槽に入りたいと思っていましたが、ホームステイ先ではシャワーだけでした。ホテルでは浴槽にシャワーがついていました。

教育では、中国の人口は約13億人いるので人は多くて、校舎も大きいんじゃないのかなぁと思っていました。訪問した学校は全部、校舎は大きく、人はすごく多いらしいです。思っていた通りでした。ですが、一つ驚いたことがありました。農村の学校にすごくよさそうな運動場がありました。

今回、中国訪問という貴重な経験ができてよかったです。

最後になりましたが、今回中国に行けたのは吉備中央町のみな様の協力があったことで、自分一人ではできないことでした。

ありがとうございました。



国際交流団員としての思い出

吉川中学校3年 伊賀 優里香



私は、7月30日から8月5日まで国際交流団員として、6泊7日の日程で中国の江蘇省淮安市楚州区、南京、上海へ行ってきました。

国際交流団員として中国に行かせていただいているいろいろなことを感じました。

まず私が驚いたことは、私たちの暮らしと比べて人が多いということ、建物が大きいということ、車ではなくバイクが多いということです。食事は私たちの食べている料理と違い、品数がたくさんあり、全てに炒めるなど火が通っており、ご飯はおかゆでした。夏が暑いせいかきゅうりや、すいかがよく出されました。

そして楚州区の歓迎会では、中国の方がとてもあたたかく迎えてくださったことが何よりもうれしく思いました。そこではいろいろな方が中国語で歓迎の言葉をおっしゃって下さって言葉が分からなくても気持ちが伝わってきてとてもうれしかったです。

ホームステイ先は、核家族でしたが近所に親戚がいたりして食事の時も、親戚の家族の方と一緒に食事をしました。日本の核家族は近所にすぐ親戚がいないことが多いので私が泊まらせていただいたところはきうすになっていなくていいなあと思いました。また言葉がつたわらなくて困りましたが少し勉強していったことや、家族の人に助けられてとても楽しい2日間を過ごさせていただきました。

また、淮安市にある学校を見学してもらいました。全校生徒が5,000人から6,000人ということや建物も、吉備中央町と比べものにならないくらい壮大で驚きました。

そして、日中友好の架け橋となった周恩来首相の記念館や故居などでは、日中友好の架け橋を物語る岡崎嘉平太氏との深い交流関係が伝わるような所でした。

そして教育懇談会や友好交流会では、「ソーラン節」、「世界に一つだけの花」を披露しました。とても緊張したけれど一生懸命がんばれたと思いました。

最終日上海万博では、よく知られている展示会場へは行けませんでした。見学できた会場では各国の風景や生活の様子などの特徴がよく表れていてとてもすばらしいものでした。それにしても万博会場は広いところでした。どこを見ても長蛇の列。よくみんなと迷子にならずにすんだなあと思えました。

最後に今回の研修で最も強く心に残ったことは、仲間と協力、団結していくことが大切なことだということ、

言葉がうまく伝わらなくても心から伝えようとすると相手に伝わるということ、

誰に対しても感謝の気持ちを忘れてはいけないということです。

このような言葉では言い表せないくらいお世話になった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。今回国際交流団員の一員として行かせていただいていた本当によかったと思っています。ありがとうございました。



国際交流研修に参加して

吉川中学校3年 水舟彩子



期待や不安が混じり合い、でも不安の方が大きいそんな気持ちで私は出国しました。中国の飛行機ということで上海万博のパンフレット、救命胴衣の説明、すべて中国語で、乗り込んだときからすでに中国の雰囲気を感じました。飛び立って2時間弱、雲のすき間から大陸と大きな河が見えました。これが社会で習った長江かと思わず感動しました。飛行機を降り、ドキドキの入国審査を終え、高速道路をバスにゆられていたその時、日本では見ないような大きな看板が目に入り飛び込んできました。広告会社のような建物は外壁がすべて看板で覆われていました。中国語なので何と書いてあるのかは全く分かりませんでした。しかし、漢字の意味を考えてみ

ると何の看板かだいたい分かる時があり、少し親近感がわきました。

中国の食事は油ものが多く、きゅうりの塩漬けやエビのような日本でもよく口にされるものからうさぎの肉のから揚げのような一風変わった食べ物まで食べきれないほど山盛りの料理が毎日テーブルに所せましと並んでいました。どうも中国の人は瓜のような食べ物を好むらしく、きゅうりやすいかは毎日出てきました。また、飲み物はコーラが多くレストランへ行ってもコーラが缶のまま出てきたりスイカのジュースといった珍しい飲み物も出されました。そんな中国の食事は3日食べると油の多さに食欲があまりなくなってしまいました。中国の人はこの食事を毎日、しかもたくさん食べているのになんであんなにやせていて肌がきれいなんだろうとだいたい不思議に思いました。でも、中国の人たちの食べきれないぐらいまで料理をだすというおもてなしの心がとてもうれしかったです。

寒山寺や虎丘、夫子廟などといった見学先では人の多さに驚きさすが中国と思いながら、また、たくさんの驚きや感動、不思議に出会いました。1400年以上の歴史をもつと言われる寒山寺には文字を記した赤いリボンのようなものがくくりつけられていました。通訳さんに、日本でいうおみくじだと教えられました。願いを叶えるという意味では同じながら、清閑な日本のお寺とは少し違った印象を持ちました。世界第二の斜塔がある虎丘では最初見たとき傾きが分からずよく見て見るとかすかに傾いていました。6,000トンのレンガを使っているそうで制作過程の想像が全くつかずこれが東洋のピサの斜塔かとただただ感動するばかりでした。中国の四大庭園である留園にはゴミ箱と分からないほど芸術的な陶器のゴミ箱がありました。壁の額には歴代の書も彫ってあり中国に行ったからには書の一つでも見てくるという私の目的も達成されました。

そして、一番の楽しみであり緊張のピークであったホームステイ。ホームステイ先へ行く前の歓迎会で家族の方と夕食を一緒に食べました。私のとなりにホームステイ先の女の子が座っていて話しかけようと思いました。でも、中国語は話せないし英語にも自信がなかったのでなかなか話すことができませんでした。そんな中、一緒に行った男の子たちが向こうの子ととても楽しそうにコミュニケーションをとっている光景が目に入ってきました。始めが大切、そう思い勇気を出して名前から聞いてみました。

「孫思敏(ソンスーミン) イングリッシュネームでソフィーです。」

そう言われました。まずイングリッシュネームを持っていること、二つ目に英語の発音がとてもいいこと、さらには日本語も上手に話して





くれたことにとっても驚き次の言葉が出ませんでした。そこからソフィーと呼ぶことになり家に行くとソフィーのいとも出迎えてくれました。家に入るやいなや日本のこと、学校、好きな映画などたくさんの質問がとんできました。私は名探偵コナンが大好きなのとソフィーはニコニコしながら教えてくれました。途中までは英語で質疑応答していました。ですが、どうしても分からないとパソコンを出してきてくれて翻訳機能を使ってやっと答えることができました。ソフィーが私も日本に行ってみたいと言ってくれました。反日の心が薄れているのを感じ

た気がしたのでうれしかったです。そのときは是非、吉備中央町にも来てくださいと楽しく話をしていました。ホームステイ二日目の夜は中国語の字幕付きで日本のホラー映画を見ました。電気を消し、カーテンを閉め切った薄暗いひんやりとした空間の中、みんなで布団をかぶり、すき間から画面を見つめていました。怖いといいながらもなかなか楽しむことができました。短いホームステイでしたが自分と年の近い子との交流ができて仲良くなれました。別れは寂しかったけど得た物は大きいなと思いました。

ホームステイの間に訪れた中国の学校は日本でいう大学のような規模の大きさでした。3,000人が入れる食堂や中学校から寮があると教えてもらいました。教育懇談会では中国は小学校3年生から英語の授業が入ってきたり中学生は1日7時間授業とも聞かされ日本と大きな違いを感じました。私が中国の学校に行ったら間違いなく逃げ出すと思うほどでした。特に語学には日本と比べようがないくらいとても力を入れていると感じました。



最近の中国のめまぐるしい発展を目のあたりにした上海万博では炎天下の中、イギリス館ラオス、イラク館などを回りました。それぞれの国の特色を明日建物がずらりと並び、名前も聞いたことのないような国もたくさんありました。アルジェリア館では砂ってこんなにたくさん種類があるんだというほど砂が展示されていました。世界は広いと改めて感じました。日本館には長蛇の列ができており何時間待ちにもなっていて本当にたくさんの人が日本に興味をもってきていると実感でき、喜ばしく思いました。

岡崎嘉平太さんとともに絆をはぐぐんで日中友好に努めた周恩来の生家に行ったとき事前に見たDVDと同じ光景が広がっていました。昔の日本と同じような台所もあり、雨が降る前に花を咲かせるという不思議



な木も見ることができました。周恩来記念館では国交正常化までの流れが写真でざっと見ることができました。中国には水を飲むとき、井戸を掘った人を忘れないという言葉があるそうです。私もこの研修でお世話になった人への感謝の気持ちを忘れず、これからも日本と中国の交流が盛んになることを願いたいと思います。

また、今回の研修で行く時は話もしなかった他校の人たちとも、帰ってきてすっかり仲良くなっていました。それは私にとって中国の文化を知り、自分自身が成長できたとともにもう一つの宝物になったと思います。

中国での思い出

吉川中学校2年 山本透音



私は、「中国の深い歴史にふれたい」という理由で、国際交流団員に応募しました。私は、中国への一週間の旅の中で、最も印象に残っていることが二つあります。

一つめは、ホームステイです。私は、中国へ行く途中で、ホームステイが一番心配でした。元々私は、初対面の人と話すのが苦手で、さらに言葉が通じないとすると、不安でした。ホームステイ先の女の子の名前は、ソフィです。私とソフィは同じ部屋でした。ソフィとは、布団に入ってから英語でたくさん話をしました。ソフィの親や従兄達とも話せたので、自分のコミュニケーション能力に自信ができました。自分から「伝えよう」と思えたことが大きな進歩だと思います。

二つめは、団員メンバーとの交流です。私から見ると、団員8人中5人は先輩でした。吉川中の先輩も2人いましたが、学校では話さないの、「どうなるのかな」と思っていました。しかし一週間一緒にいると不思議なもので、最終日には、メンバーみんなが仲良くなれました。最後に8人で大富豪をしたのも思い出です。私は、この8人のメンバーで本当に良かったと思っています。

今回の一週間の旅は少々ハードでしたが、無事岡山に帰れてよかったです。また、応募した理由の「中国の深い歴史」を、ほんの一部ながら知ることができ、楽しかったです。一生のうち、きっと二度とない貴重な経験ができました。ありがとうございました。



研修で学んだこと

加茂川中学校 2年 山崎 弘太郎



僕は、「吉備中央町中学生友好訪問団」として6泊7日の日程で中国の淮安市楚州区へ行ってきました。その研修の中で、印象に残り、僕が影響を受けた「自分の目で見て聞いて学ぶ大切さ」、「人との出会いの大切さ」の二つのことを書きたいと思います。

まず、一つ目は、上海万博のことです。この日、僕たちはパビリオンを見学する班と会場を散策する班の二つに分かれました。会場は多くの国のパビリオンと企業が出展したパビリオンの大きく二つのエリアに分かれていました。会場は、あまりにも広く、循環バス、地下鉄、フェリーといった移動手段があったことに驚きました。日本の愛知万博では考えられませんでした。万博を訪れていた人は、割合として

アジアの人達が多かったように思いました。中国人の服装は僕たちと似ていたので、はっきりと日本人との区別が付きませんでした。多くの人達が訪れて、たくさんの言葉があちこちで使われているのを知り、海外に来ていることを実感しました。

最近、中国の経済的な発展は目ざましく、そのニュースは、新聞やテレビでもよく報道されています。日本との貿易も中国が占める割合が非常に高く、僕たちの生活にとっても欠かすことのできない国のひとつです。今回、上海市内や万博を実際に訪れて、授業で学習したり、報道されたりしていることが、そのとおりなのだと感じました。

一方、上海万博が開催される前に、来場者のマナーの問題をよく耳にしました。しかし、僕が見た限りでは、ゴミの問題や順番を守る等の基本的なマナーは守られていました。

こうして考えてみると、実際に現地を訪れて自分の耳や目で感じ取ることで、本当の姿が見えると強く感じることができました。

二つ目は、ホームステイや歓迎式典での僕たちへの温かい心遣いについてです。教育懇談会、友好交流会で、訪れた小学生達の歓迎会はとても盛大なものでした。僕たちのために時間を割いて練習したのかと思うと、今も感謝の気持ちでいっぱいです。その中でも、黄色の演舞服を着た小学生の棒の演舞に、鳥肌が立ちました。僕は、伝統的な演舞を見ながら人から人へ伝承される文化や歴史の凄さについて考えさせられました。吉備中央町の訪中団の出し物は、よさこいソーランと合唱でした。日本の文化や伝統を少しでも伝えたいと思って、何回も集まって練習してきたので、しっかりと伝わっていれば嬉しいです。

ホームステイ先は、一人っ子政策のため3人家族でした。ホストファミリーの子どもは中学3年生でした。僕たちが少しでも楽しめるようにと、積極的に交流してくれました。ゲームをしたりトランプをしたり、英語を使いながら会話をしました。また、朝起きた時には、日本語で「おはよう」とあいさつをしてくれたり、食事の時には毎回、乾杯をしてくれたりしました。二日目の夜には、ホームステイ先の両親の友人を招いて食事会をしてくれました。僕たちを中心にたくさん写真を撮ってくれました。とても歓迎されていると感じ、嬉しく思いました。

さらに驚いたのは、僕たちの親に変換ソフトで日本語の手紙を作ってくれたことです。ここまで交流を深めようとする気持ちに感動しました。

見知らぬ所でホームステイすることに、とても不安な僕たちをもてなそうとする気持ちが、とても大きな安心を与えてくれました。

「人と人とのつながりを大切に。」岡崎嘉平太さんが残している言葉です。この言葉は、お互いのことを理



解し、大切に思うことを伝えたいのだと思います。中国のホストファミリーとの出会いの中で学んだ大切な体験となりました。

最後に、この研修は、たくさんの人の支えがあって実現できました。今後は、この研修で学んだ「自分の目で見て聞いて学ぶ大切さ」「人との出会いの大切さ」を、学校生活の中でも活かしていきたいと思います。素晴らしい経験をさせていただき本当にありがとうございました。

吉備中央町初中生国際交流進修事業

国際交流研修事業に参加して

竹荘中学校1年 早川直希



ぼくがこの「吉備中央町中学生国際交流研修事業」で感じたことは、人から聞いた情報より自分の目で見た情報の方が確かだということです。だから、これはこうだと思っていたことが実は違うということがたくさんありました。

例えば、中国へ行く前に行った事前研修会で、

「中国のトイレには備え付けのトイレットペーパーがないですから、ティッシュを多めに持って行った方が良いでしょう。」

と言われた。なので、ティッシュを多めに持って行った。だけど、ぼくの入ったトイレは、どれも備え付けのトイレットペーパーがあった。だから、一週間の研修で使ったティッシュは二つくらいだった。だけど、トイレでびっくりしたのは、使ったトイレットペーパーをゴミ箱に捨てることだった。だから、中国のトイレはくさいという話がでてきたのかなと思った。

さらに、中国へ行く前に友達から聞いた話で、

「中国の料理は薬のような味がするらしいよ。」というのを聞いた。でも、中国の料理を食べても、薬を連想させるような味付けは一つもなかった。だけど、中国の料理は味付けがけっこう濃いとということが分かった。

ぼくはこの研修で、いわゆる「百聞は一見にしかず」ということわざが、本当だということがよく分かった。そして、一見すれば自分の経験が増えるということが分かった。だから、これからは経験をつんで自分が向上できるように頑張りたいです。



—— 参 考 资 料 ——

研修団員の募集から報告会まで

5月7日(金)～6月1日(火)

研修団員募集 (応募生徒数 15名)

6月1日(火)

各中学校より研修団員の推薦

6月13日(日)

研修団員選考会開催

6月14日(月)

団員決定通知

6月28日(月)

第1回事前研修会

委嘱状交付後、リーダー、サブリーダーの決定、友好交流会での発表内容について検討

7月7日(水)

第2回事前研修会

中国語講座

講師 韓 英玉氏

7月16日(金)

第3回事前研修会

「中国淮安を訪ねる」

講師

平成20年度吉備中央町

中学生国際交流研修団

副団長 堀 口 修氏

発表内容練習

7月21日(水)

第4回事前研修会

発表内容練習



第1回事前研修会・自己紹介



第2回事前研修会・中国語講座



第3回事前研修会・発表内容練習



第4回事前研修会・最終確認

7月30日(金)

壮行式

9月22日(水)

報告会



壮行式



報告会

吉備中央町中学生国際交流研修団日程

	月 日	都市名	交通手段	時刻	行 動 予 定	食事
1	2010年 7月30日(金)	岡 山 岡 山 上海(浦東) 蘇 州	MU528 専用車	11:00 13:30 14:10	岡山空港着 [出発] 上海浦東国際空港到着 着後、夕食。ホテルへ (蘇州泊)	機 夕
2	7月31日(土)	蘇 州 淮 安 楚 州	専用車	08:00 12:00 17:30 18:30	蘇州市内見学 寒山寺、虎丘 市内昼食後、専用車で楚州区へ 楚州区着 歓迎会 * 歓迎会後学生はホームステイへ (楚州区泊)	朝 昼 夕
3	8月1日(日)	淮 安 楚 州	専用車	08:00 12:00 14:30 18:30	引率教員と学生合流 周恩来記念館、故居、呉承恩故居参観 昼食 淮安外国語学校、淮安高校参観 夕食 * 学生はホームステイへ (楚州区泊)	朝 昼 夕
4	8月2日(月)	淮 安 楚 州 南 京	専用車	08:00 11:00 14:30 17:00 20:30	教育懇談会、友好交流会 昼食 専用車にて南京へ移動 夫子廟見学、夕食 ホテルチェックイン (南京泊)	朝 昼 夕
5	8月3日(火)	南 京 上 海	専用車	08:00 10:00 14:00 19:00	中山陵見学 専用車にて上海へ移動、途中昼食 上海市内見学、ショッピング、夕食 ホテルチェックイン (上海泊)	朝 昼 夕
6	8月4日(水)	上 海	専用車	終 日	上海万博園見学 (上海泊)	朝 昼 夕
7	8月5日(木)	上海(浦東) 岡 山	専用車 MU527	朝食後 09:10 12:10	専用車にて上海浦東国際空港へ [帰国] 岡山空港に到着	朝 × ×

- 宿泊ホテル
- 蘇州 蘇州新城花園酒店 … 江蘇省蘇州市虎丘区獅山路1号 TEL (0512) 65322888
 - 淮安 淮安賓館 …………… 江蘇省淮安市楚州区友誼路2号 TEL (0517) 85940172
 - 南京 江蘇新世紀大酒店 … 江蘇省南京市龍蟠路133号 TEL (025) 86888888
 - 上海 江蘇飯店 …………… 上海市武寧路888号 TEL (021) 62051888

淮安市楚州区の概況

1. 淮安市楚州区の概況

中華人民共和国江蘇省淮安市楚州区は南京市の北約190km、蘇北平原の中部に位置し、面積約1,600km²、人口120万人余りの町。

悠久の歴史があり、歴史的に貴重な建造物も多数残されている。また西遊記の作者「呉承恩」氏をはじめ、多くの文人、偉人を輩出している。中でも1898年、淮安市に生まれた「周恩来」は中華人民共和国の偉大な指導者であり世界的にも有名な人物。

米作、畜産、水産養殖を中心とした農業の町。近年、紡績工場、電子部品工場などができ、工業化への道を進み始めている。現在大小あわせて60余りの工場があり、年々業績も上がっており、今後大きく発展することが見込まれている。

2. 淮安市の中学校

淮安中学校は1923年に創設された学校。周恩来総理の意思を引き継ぎ、「勤勉な教員、勤勉な学生」「教育は人類共同の事業」を基本に教育を行っている。

淮安市楚州区の小・中学校は600校で、中学校は初等部（日本の中学校）と高等部（日本の高校）がある。その上に専門学校、大学等があり学生は12万人。

淮安市楚州区の大学進学率は、中国1位である。淮安中学校の一年は次のとおり。

3月1日	二 学 期		7月5日	9月1日	一 学 期		2月5日		
冬 休 み	始 業		終 業 ・ 卒 業	夏 休 み	始 業 ・ 入 学	学 年 始 ま り	運 動 会	終 業	冬 休 み

3. 淮安市楚州区の一般家庭

ホームステイ先の家庭は、日本とあまり変わらない設備が整えられています。

外国の子ども達を受け入れることに積極的であり、また、子ども達も外国の生活を体験したい気持ちが大いにある。

淮安市楚州区との友好交流

■ 現在までの経過

1993年（平成5年度）

■ 5月22日～5月23日

日中友好都市縁組予備調査団来町
町内視察 賀陽町を表敬訪問
江蘇省人民政府 沈才元氏 他3名

■ 9月4日～9月11日

賀陽町から中国行政視察団派遣
淮安市、江蘇省人民政府、中日友好協会を表敬訪問
町長、議会議長、企画振興課長

■ 11月11日～11月15日

淮安市訪日団来町
町内、県内視察、賀陽町を表敬訪問
友好交流に関する意向書を交換
淮安市副市長 陳寿松 他4名

1995年（平成7年度）

■ 9月15日～9月22日

賀陽町視察団訪中
淮安市、江蘇省人民政府表敬訪問
助役、議会議長、竹荘中学校教頭、企画振興課次長

■ 10月30日～11月6日

淮安市訪日団来町
町内、県南視察、賀陽町を表敬訪問
友好交流に関する覚書を交換
淮安市人民対友好協会 陳子龍氏 他4名

1996年（平成8年度）

■ 8月19日～8月25日

第1回中学生国際交流研修団派遣
議会議長（団長）、中学生4名、商工業関係2名、教師1名、事務局1名
ホームステイ2泊3日
中学生と懇親会（歌・踊り・カラオケ等）
絵画・書道の交換 小学生：絵画39点、書道56点
中学生：絵画35点、書道30点
ビデオテープの交換

■ 12月3日～12月8日

淮安市訪日団来町
町内、県南、京阪神視察、賀陽町を表敬訪問
友好交流に関する意見交換
淮安市長 花法栄氏 他3名

1998年（平成9年度）

■ 3月3日～3月7日

賀陽町友好訪問団派遣
周恩来生誕100周年記念式典参加
町長、議会議員、企画振興課次長

1998年（平成10年度）

■ 5月13日～5月19日

淮安市友好訪問団来町
友好提携協定締結について確認、新潟県西山町との合同交流
淮安市人民政府 陳寿松市長 他4名

■ 8月18日～8月25日

第2回中学生国際交流研修団派遣
企画振興課長（団長）、中学生8名、教師1名
ホームステイ2泊3日
新安小学校歓迎会（歌・踊り等）

■ 11月25日～11月29日

賀陽町・淮安市友好交流記念『中国展』開催

1999年（平成10年度）

■ 1月26日～1月29日

淮安市友好訪問団来町
淮安市・賀陽町友好提携協定調印式
淮安市人民政府 陳寿松市長 他4名

1999年（平成11年度）

■ 6月11日～6月18日

賀陽町友好訪問団派遣
友好提携協定後の答礼、新町長による表敬訪問
町長、議会議員、商工会長、大和中学校校長、企画振興課主査

■ 8月24日～8月29日

第1回淮安市学生友好訪問団来町
淮安市 趙副市長ほか2名、学生8名
ホームステイ 2泊3日
大和中学校歓迎交流会（合奏・合唱・銭太鼓・踊り等）

2000年（平成12年度）

■ 8月18日～8月25日

第3回中学生国際交流研修団派遣
企画振興課長（団長）、中学生8名、教師2名
岡崎嘉平太物語、中国語漫画本作成（500部）
淮安市へ300部贈呈
ホームステイ2泊3日
スポーツ交流としてバスケットボール・バドミントン
中学生同士の歓談会、交流会（松山踊りを披露）

2001年（平成12年度）

■ 2月

中国国務院の行政区画調整企画に基づく決定により、淮安市の地名が楚州区に変更

2001年（平成13年度）

■ 7月17日～7月22日

第2回学生友好訪問団来町

楚州区対外友好協会朱亜文副会長（団長）、学生8名、引率3名

ホームステイ2泊3日

竹荘中学校（交流懇談会、英語、パソコン授業、給食を一緒に）

豊野小学校 歓迎交流会（合唱、合奏、スタンプラリーなど）

■ 9月21日～9月25日

2001年日中友好駅伝大会参加友好訪問団派遣

賀陽町体育協会亀山副会長を団長他、8名

■ 10月5日～10月12日

賀陽町友好訪問団派遣

賀陽町長、議会議員8名他

友好都市関係確認書調印（10月7日）

楚州区人常大委会議員、賀陽町議会議員懇談会

2002年（平成14年度）

■ 8月18日～8月25日

第4回中学生国際交流研修団派遣

教育長（団長）、中学生8名、教師2名

ホームステイ3泊4日

中学生同士の歓談会、交流会（フォークダンスを披露）

2003年（平成14年度）

■ 3月2日～3月9日

賀陽町友好訪問団派遣

賀陽町女性団体連絡会会長難波美智哉団長他11名他

周恩来総理誕生105周年記念イベントへの参加

高齢者・幼児施設への訪問、日中女性交流懇談会開催

2003年（平成15年度）

学生友好訪問団来町 中止

重傷急性呼吸器症候群（SARS）が中国、香港、台湾等の地域で集団発生したため、受け入れ・ホームステイについて検討した結果、延期することに決定

2004年（平成16年度）

■ 7月30日～8月6日

第5回中学生国際交流研修団派遣

助役（団長）、中学生8名、教師2名

ホームステイ4泊5日

中学生同士の歓談会、交流会（新潟県柏崎市と同行、やとさを披露）

■ 8月19日～8月24日

第3回学生友好訪問団来町

楚州区人民政府常務副会長宗兆昱（団長）、学生10名、引率3名

ホームステイ2泊3日

吉川中学校（交流懇談会、書道、合唱、祭囃子で交流、記念品授与、施設案内）

大和小学校 学校施設見学（岡崎嘉平太文庫他）、岡崎嘉平太先生墓参り

2005年（平成17年度）

■ 6月16日～6月23日

淮安市楚州区友好訪問団来町

友好提携協定確認式

淮安市楚州区人民对外友好協会会長（楚州区副区長）劉 友超 他4名

■ 8月18日～8月23日

第4回学生友好訪問団来町

淮安市楚州区人民对外友好協会副会長王國權（団長）、学生10名、引率3名

ホームステイ2泊3日

大和小学校での交流会、町内視察、企業見学、岡崎嘉平太先生墓参り

2006年（平成18年度）

■ 7月28日～8月4日

第6回中学生国際交流研修団派遣

総務部長（団長）、中学生8名、教師2名、町国際化推進協会1名

ホームステイ3泊4日

学生同士の歓談会、交流会（よさこいソーランを披露）

2007年（平成19年度）

■ 8月9日～8月14日

第5回学生国際交流訪問団来町

淮安市楚州区人民政府副区長王宝玉（団長）、学生10名、引率3名

ホームステイ3泊4日

加茂川中学校での交流会、町内視察、企業見学、岡崎嘉平太先生墓参り

2008年（平成19年度）

■ 3月3日～8日

吉備中央町友好訪問団派遣

町長（団長）、議会議長、国際化推進協会会長、総務課長

周恩来総理誕生110周年記念イベントへの参加

日中友好懇談会開催

2008年（平成20年度）

■ 7月28日～8月3日

第7回中学生国際交流研修団派遣

教育長（団長）、中学生8名、教師2名、町国際化推進協会1名

ホームステイ3泊4日

学生同士の歓談会、交流会（すずこ、中国語で歌「四季の歌」、もんきり遊びで交流）

2010年（平成21年度）

■ 2月4日～9日

第6回学生国際交流訪問団来町

淮安市楚州区人民政府副区長呉国飛（団長）、学生8名、引率4名

ホームステイ3泊4日

竹荘中学校での交流会、町内視察、企業見学、岡崎嘉平太先生墓参り

2010年（平成22年度）

■ 7月30日～8月5日

第8回中学生国際交流研修団派遣

教育長（団長）、中学生8名、教師2名、町国際化推進協会1名

ホームステイ2泊3日

学生同士の交流会（よさこいソーラン、合唱を披露）

平成22年度 中華人民共和国江蘇省淮安市楚州区訪問
吉備中央町中学生国際交流研修団報告書

編集・発行 吉備中央町国際化推進協会
〒716-1192 岡山県加賀郡吉備中央町豊野1-2
TEL 0866-54-1301
事務局（吉備中央町協働推進課内）